

守れ！イチモンジタナゴプロジェクト 2018 報告書③

開催日：平成30年6月16日（土）

時間：13時30分～15時00分

場所：レクチャールーム、イチモンジタナゴ飼育場、噴水池

参加人数：21名中18名

運営スタッフ：佐々木、釜鳴、安井、瀬古、精華大学板倉ゼミ学生6名

内容：

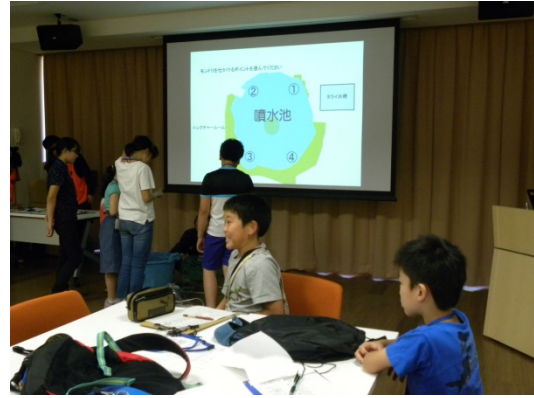
- ・外来生物について学ぶ
- ・タライ水槽の観察
- ・水質検査
- ・イチモンジタナゴの観察
- ・ドブ貝の観察
- ・噴水池の外来生物駆除（ザリガニ釣り）

今回のテーマは「外来生物」です。



外来生物について、クイズ形式で学びました。この後で噴水池で駆除する、アメリカザリガニやブルーギルのクイズもあり、みなさん真剣に考えてくれていました。

正解の多かった班から順に、この後ブルーギルを捕まえるため仕掛けるモンドリ（罟）の種類と噴水池の場所を選びました。



網タイプとプラスチックがあります。 噴水池のどこがブルーギルが獲れるでしょうか!?

レクチャールームから外に出てイチモンジタナゴとドブ貝がいるタライ水槽を各班で観察しました。



稚魚は確認できませんでした。

そして、恒例の水質チェックを行いました。今回は、硝酸塩 (NO₃) の値が水槽No. 1, 2が “45” で、No. 3, 4が “20” と高めでした。



キットを使って、pH、アンモニア、亜硝酸、硝酸塩の値を調べます。

次に貝を開口器を使い、イチモンジタナゴがドブ貝に産卵しているかどうかチェックをしました。

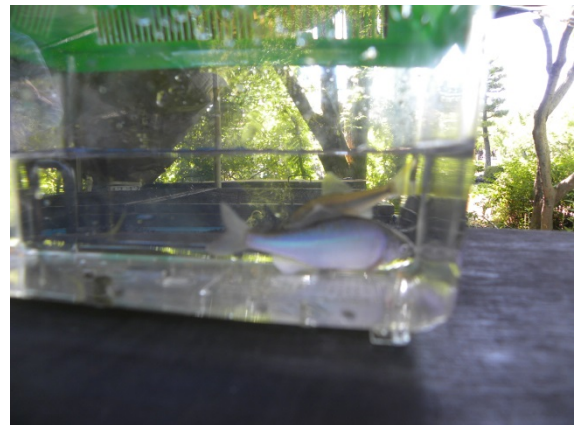


開口器を使って、ドブ貝を開きます。



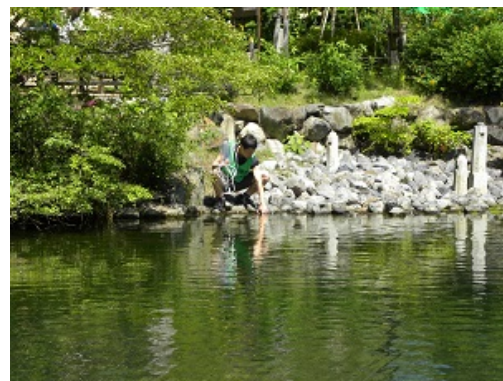
残念ながら卵は産んでいませんでした

イチモンジタナゴも間近で観察。



オスの婚姻色や追星、メスの産卵管を観察

参加者のみなさんが、水質チェックやイチモンジタナゴの観察をしている間に、精華大学の学生スタッフの方々がモンドリを仕掛けてくれました。



さなぎ粉でブルーギルをおびき寄せます。

最後に、待ちに待った外来生物の駆除（ザリガニ釣り）の時間です。

動物園がリニューアル工事期間中に、噴水池の水を抜いて、浚渫（しゅんせつ）工事を行いました。その影響で噴水池の生態系が崩れ、アメリカザリガニやブルーギルが増えてしまいました。アメリカザリガニはイチモンジタナゴが産卵に使うドブ貝を食べ、ブルーギルはイチモンジタナゴの稚魚を食べてしまいます。

将来的に、イチモンジタナゴを噴水池に放流し繁殖させるには、アメリカザリガニやブルーギルを駆除しなければならないのです。



ザリガニの餌として、さきいか、チータラ、馬肉、アジ、たくあん、バナナを用意しました。



みなさん夢中で釣っています！

4つのモンドリを引き揚げて、ブルーギルが入っているか確認してみると…



残念ながらブルーギルは0匹・・・
たくさんいるはずのブルーギルは獲れませんでした。

ザリガニはどれだけ釣れたかというと…



オス14匹、メス32匹の計46匹でした。オスとメスの見分け方も、前半にしっかり学んだことを覚えてくれていました。

今回の活動では、外来生物について学び、それがもともとその地域にいる在来生物にどのような影響があるのかを学びました。また、みんなで噴水池のザリガニを駆除できた事で、将来イチモンジタナゴが、噴水池で繁殖できる環境づくりに繋がったと思います。